

- 1 実施日時 令和6年12月24日（火）13時00分から15時00分まで
- 2 実施場所 富士宮市総合福祉会館2階 安藤記念ホール（住所：富士宮市宮原 7-1）

3 実施内容

（1）タイトル 「こどもの視点教室」を体験しよう

（2）内 容

株式会社電通「こどもの視点ラボ」による「こどもの視点教室」開催

- ・ 6つの研究紹介
- ・ 体験（4mの大人VR、ベビーボイス、2歳の朝食）
- ・ パネルディスカッション

4 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

「こどもの視点ラボ」の「大人がこどもになってみる」ことで子どもへの理解を深め、親と子、社会とこどもの関係をより良くしていくことを目指して活動している（こどもの視点ラボ HP より）ということに共感し、実際に施設に出向いていろんな体験をしてみたいと思いました。「こどもの視点教室」を地元で開催していただければ、保育分野に興味のある高校生はもちろん、現役の保育士・幼稚園教諭の方、現在子育て中の保護者の方に参加していただくことで子どもへの理解を深めることができるのではないかと、子どもと接することや子育てへの悩みや不安を少しでも取り除きたいと考えた。

そこで「こどもの視点ラボ」を富士宮にお招きし、地元の子育て支援の一助としたいと考え、「こどもの視点教室」を開催した。

<イベント実施までのプロセス>

- 5月 「ドリーム・プロジェクト」企画書提出
- 6月 採用決定
- 7月 開催日時決定、「富士宮市教育委員会社会教育課」に共同開催依頼
- 8月 チラシ作成（来場者の申し込みはGoogle フォームを使用）
- 10月 チラシ配布・掲示依頼（富士宮市公立保育園、私立こども園・幼稚園等）
- 11月 イベントでのチラシ配布（大神田楽市等）
- 12月 模擬パネルディスカッション



<イベント当日>

「こどもの視点教室」

講師：株式会社電通「こどもの視点ラボ」代表 石田文子 氏

①講演：「こどもの視点ラボ」6つの研究紹介

②体験：3つの「こどもの視点」を実際に体験



「4mの大人VR」：大人が大きすぎて怖すぎる！

大人がこんなに大きいなんて...

「ベビーボイス」：何でも赤ちゃんの泣き声に！

言いたいことが伝わらない...

「2歳の朝食」：牛乳パック、カップ、トーストの
大きさにびっくり！こどもって、
ご飯を食べるだけでも大変なんだ...



4mの大人VR



ベビーボイス



2歳の朝食

③パネルディスカッション 「それぞれの立場で考える子育て支援」

講演や体験を踏まえ、子育て支援にかかわる様々な立場の方との意見交換を行った。

パネリスト：富士宮市公立保育園長、富士宮市私立幼稚園長、NPO 法人代表、

「こどもの視点ラボ」石田氏、富岳館高校代表生徒 計5名

司会：富岳館高校生



～ その他 ～

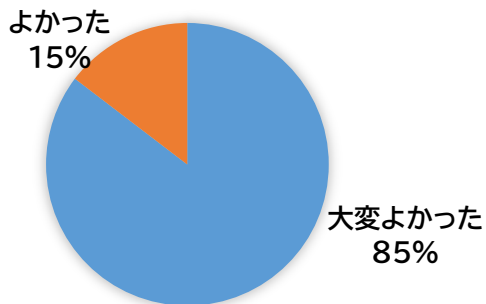
- ・受付、駐車場、会場案内等をメンバー全員で役割分担



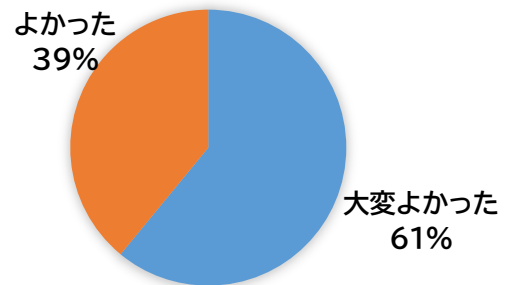
- ・子育て中の保護者向けの託児も委託（申し込み10名、当日利用4名）こどもの体調不良で欠席が多く、子育て中は予定通りに行かないということも実感

～ 事後アンケート結果 ～

講演はいかがでしたか



パネルディスカッションはいかがでしたか



主な意見

- ・子どもとの接し方や叱り方等、今まで酷なことをしていたかもしれないと気が付かされる事が多かったです。
- ・こども視点ラボさんはテレビ等で拝見していたので今回富士宮での開催と聞いて驚いていました。富岳館高校の生徒たち主催で更に興味を持って参加させていただきました。
- ・現在保育士をしているのですが改めて子供とのかかわり方を見直そうと思いました。
- ・高校の探究のために参加してみましたが、たくさんのことをこどもの視点から学ぶことができ、理解していくことが大切なんだと思いました。参加して良かったです。

5 感想 ～ 実施後の振り返りより ～

担当した役割分担について

- ・ボードを持って立っているだけではなく、挨拶など自分でできることを探すことができてよかった。(駐車場)
- ・運営側になって受付をするのは初めてのことだったのでできるか不安だったけど、同じ受付の係同士で言葉を確認し合ってわかりやすく伝わるかどうか練習した。(受付)
- ・何カ所か言葉を言い間違えてしまったけど最後までやりきる事ができてよかった。(司会)
- ・最初はお客さんにどんな声掛けをすれば良いか分からず、言葉を考えるのが難しかった。普段は自分もお客さんの立場だが、今回、誘導する側をやってみて、いつもは考えることのない誘導している人の気持ちを知ることができた。(案内・誘導)
- ・予定通り進むとはあまり思っていなかったが、想定より時間がかなり短く感じ、進行の難しさを感じた。(パネルディスカッション司会)



全体を通して

- ・パネルディスカッションでは、代表の仲間がステージに立っている姿を見守る形になりました。練習を一緒にしたり、緊張している様子を見ていたので私も同じ気持ちになってしっかりと聞くことができました。
- ・最初に応募するか悩んでいた時は、高校生で本当に運営できるのか、全く想像がつかなかった。チラシ作り、交渉、チラシ配りと初めての経験を沢山して大変だったけど、その分やりがいを感じることができ、今回このプロジェクトに挑戦してよかったなと思った。今後この大きな経験を活かして、運営する側、指導する側に前向きに挑戦していきたい。そして、こどもの視点ラボさんの講演を聞き、大人が子どもの視点になる大切さを高校生のうちに学ぶことができたので、早いうちに知ることができた強みを進学先、将来で子供と関わる際に意識して活かしていきたい。
- ・今回、人との関わりがとても大切なことだと準備の段階でも、当日も、改めて感じたので、これから先、さらに人との関わりを築いていきたいと思った。学んだ事や経験は、大学生になったあとの学びや、将来保育士として働く時にも、こどもたちへの接し方など、活かしていきたい。
- ・クリスマスや平日にも関わらず、高校生や、子育て中のお母さん、その他の人などたくさんの方がわざわざ足を運んで来てくれたことが嬉しかった。チラシを作ったり、配ったりなどたくさんの方を苦労して準備してきたかいがあったなと思った。体験もたくさんの方が興味を持ってくれたり、講演も全員の方が1つ、2つ新しく学んだことがあったのではないかなと思った。たくさんの方と協力しながら準備からやってきたことで最後は大成功で終わったのかなと思った。とても良い貴重な経験だった。
- ・頑張っている人のために忙しい日でも人がきてくれた。だから応援してくれる人がいることを信じてこれからも全力で準備や本番に取り組みたい。

